

研究テーマ

ESD 地球にやさしい子どもを育む幼児教育 「のびのびと遊ぶ心豊かな子どもの育成」
～人への思いやり 環境への思いやりをもつ子どもを育てるための援助の工夫～

1 テーマについて

本園では「思いやりをもつ子どもを育てる」という研究テーマのもと研究を重ねてきた。昨年度はSDGsの視点に立ち、環境に対する思いやりの気持ちをもつ子どもの育成に向けても取り組み研究を深めた。その結果、SDGsに対して保護者も含め園全体が関心をもつようになった。子ども達はごみ問題に対する意識や無駄を減らそうとする意識を高めることができ、教師は、これまで取り組んできた思いやりの研究と日頃からの人権教育はSDGSにつながる取り組みであったことを再確認することができた。また、コロナ禍で希薄になった保護者同士のつながりを再構築するために、SDGSの視点を取り入れた人と触れ合える後援会行事に取り組みたいという保護者の思いも生まれた。

一方、熊本市ではより質の高い幼児教育を提供していくためにSDGsの基本理念を踏まえた「熊本市立幼稚園まなび創造プログラム（令和4～8年度）を策定し、基本目標を「遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む教育の推進」とし、「めざす子どもの姿」を掲げた。そこで、熊本市立幼稚園では、これまでの実践の継続とこの新たな目標達成のために、上記の研究テーマを掲げた。本園ではサブテーマを～人への思いやり環境への思いやりをもつ子どもを育てるための援助の工夫～とし、保育の充実を目指して研究に取り組むこととした。

(1) 「人への思いやり」とは

本園では人に対する思いやりを「相手の立場に立って考え、相手の気持ちを感じとり、相手に共感できること」と捉える。そのような姿を育むためには、子どもたちが安心して生活できる基盤を作り、自分を出しながら思う存分に遊びに取り組む中で、満足感をもてるようにすることが大事である。子どもと教師との信頼関係が重要であり、教師が一人一人を大切にしたい思いやりのあふれる関わりをすることは、子どもの人に対する思いやりを育むために重要であると考えている。

(2) 「環境への思いやり」とは

環境に対する思いやりは「園内外における身近な物（遊具、用具など）や自然環境に触れて遊ぶ中で愛着をもち、大切にしようという気持ちをもって行動すること」と捉える。子どもたちがこのような思いをもって行動するためには、それらに関わり好奇心をもって存分に遊びこみ楽しい経験をすることや、地域に出掛け見たり触れたりする中での感動体験が大切だと考える。環境に関わって遊ぶ中で親しみや感謝の気持ちをもったり周囲の人や環境への接し方を見て学び、自分の関わり方も考えたりすることができるようになる。子どもたちの身近にいる私たち教師が、物や自然などの環境に愛着をもち、大切にすることを環境を大切にしようとする子どもの心を育てるのだと考えている。

2 めざす子どもの姿

3歳児：身近な人や環境に興味や関心をもち、見たり触れたりすることを楽しむ。

4歳児：友達と関わりながら様々な感情を共感しあい、言葉で伝える。

身近な自然や物と関わって遊ぶ中で親しみの気持ちをもつ。

5歳児：いろいろな考え方があることを知り、自分も相手も大切にしようとする。

自然の美しさや不思議さに気付き、好奇心や探求心をもつ。

3 研究の仮説

人への思いやりや環境への思いやりをもつ子どもが育つための援助を工夫すれば、地球にやさしい子どもを育むことができるだろう。

4 研究の視点

視点1 人に思いやりをもって接することができるようになるための環境と援助の工夫

視点2 身の回りのものや自然等、環境への思いやりをもつ子どもを育てるための活動と援助の工夫

視点3 保護者との連携の工夫

5 研究の方法

- 前年度作成の「隈庄幼版 SDGS 17の目標」と「SDGsに関する絵本と動画の一覧表」を活用、継続する。
 - ・生活習慣の年間計画に目標を取り入れ、実践を工夫する。
 - ・掲示物や絵本、動画視聴（タブレットの活用）での啓発を継続する。
 - ・整理整頓された美しい環境作りと教材の充実を図る。
- 「幼稚園教育要領5領域のねらいと内容」「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」「隈庄幼稚園版 SDGS 17の目標」「ESDで目指す能力・態度」「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を理解し、それぞれの窓口から子どもの姿を見ることで、一人ひとりの子どもの育ちの理解に努める。
 - ・エピソード研修を学期ごとに行う。
 - ・子どもの実態を踏まえた指導計画を作成する。
 - ・各クラスの研究保育、モデル園研究発表に取り組む。
 - ・講師を招聘し研究の充実を図る。
- 後援会と連携した取り組みを行う。
 - ・親子や保護者同士のつながりを深めるための後援会行事「くまっこの日」と連携した取り組みを工夫する。
 - ・後援会活動「アルミ缶回収」と連携した「SDGSの日」の取り組みを継続する。
- 1年間の実践を基に研究の成果と課題を明確にし、職員間で共通理解する。